

## 2010年佐久長聖中学カナダ英語研修レポート（翻訳）

### 1. 研修の概括 (General Program Overview)

生徒たちは3月2日の午後4時にローレル・ポイント・インに到着しました。TOA社とCPCI社のスタッフによる歓迎、ホテル・オリエンテーションの後、軽食を摂ってから就寝しました。

3月3日からサルベーション・アーミー・コミュニティ教会で研修が始まりました。歓迎・研修オリエンテーションがあり、生徒たちはカナダ人の先生及びアシスタントと対面しました。その後、CPCIスタッフが研修会場を見せて回った後、生徒たちを各クラスに案内しました。まだ生徒たちがホーム・ステイ・ファミリーに会う前なので、昼食はCPCIが用意したものを食べました。胸がドキドキするホスト・ファミリーとの対面は、同日の後のほうで実現することになっていました。

研修は3月3日から3月10日までの間に実施されました。生徒たちは朝8時から9時の間に研修会場に登校しました。専任のスタッフ・ミーティングが毎朝8時半に行われました。授業は午前9時から始まりました。午後4時半から5時の間に生徒の迎えが来ました。総じて言えば、午前中はクラスで勉強し、午後は用意されたアクティビティに参加、というのが日課でありました。それらのアクティビティはCPCIのスタッフによって用意されたものです。

アクティビティの内容

- \* Mt. Douglas 高校との学校交流。
- \* ボランティア体験（幾つかの場所に分散）。
- \* ダウン・タウン・ラリー（テーマを持つての市街地巡り）。
- \* 付近の老人ホームでの合唱・得意技披露と楽器演奏。

### 2. 学校交流 (Friendship Exchange)

Mt. Douglas Secondary School との学校交流は、疑いなくこの研修のハイライトの一つです。交流は歓迎の式典に始まり、Mt. Doug 校生徒と長聖中學生徒の合同でのバンド演奏・コーラス、ギフトの交換と続きました。その後、Mt. Douglas 校の校長先生である John Fawcett 博士によるスピーチがあり、Mt. Douglas 校は全校をあげて、2011年の交流を心待ちにしていると伝えて下さいました。

交流には学校見学が含まれ、その後、体育館で昼食を食べながら（マシュマロとスパゲティを使って建造物を組み立てる）「Engineering Challenge」というゲームをしました。

また、長聖中学の生徒たちは Mt. Douglas のクラスに積極的に参加しました。それは彼らにとって心ときめく経験となりました。

### 3. ホーム・ステイ体験 (Homestay Program)

この研修において、佐久長聖中学の生徒たちはカナダ人のごく普通の生活を体験します。生徒たちはホーム・ステイを通して、カナダ文化に言わば「溶け込む」のです。ユリ・ジェンクスとそのスタッフは、出来る限り生徒の希望に合うホスト・ファミリーを捜すべく、多大な時間を使って努力します。その結果、生徒たちは最も自分に合ったファミリー宅で住むことになります。その経験によって生徒たちは、英語の理解力や会話力を高めながら、リラックスして自信をもつことができるようになります。

### 4. 設備／サービス (Facilities / Services)

ローレル・ポイント・イン。

サルベーション・アーミー・コミュニティ教会。

Mt. Douglas 高校。

St. Michael's University 校 (学校バスと運転手の供給)。

### 5. 研修のハイライト (Program Highlights)

ホーム・ステイ・プログラム。

学校交流。

ダウン・タウン・ラリー。

ボランティア・デイ。

修了式。

(写真) ボランティア・デイ (幾つかの場所に分散) の様子。

(写真) 付近の老人ホームでの合唱と楽器演奏の様子。

### 6. 修了式 (Diploma Ceremony)

修了式は 3 月 10 日の水曜日にサルベーション・アーミー・コミュニティ教会で行われ、全ての生徒と英語の先生・アシスタントの努力が賞賛されました。各クラスの代表スピーチがなされ、各生徒には修了書と団体写真が手渡されました。ホスト・ファミリーを中心とした聴衆には、生徒有志による習字や篠笛の技が披露されました。さらに、生徒たちのバイオリン合奏やコーラスなどの音楽演奏も披露されました。その後、レセプションが開かれました。

## 7. 英語の先生・アシスタントの雇用 (Selection of CPCI Staff)

この研修のための最高の先生・アシスタントを雇用すべく、細心の注意と努力が以下のように払われました。

Craig's List というインターネット広告に、先生とアシスタント募集の告知が出されました。

締切日は 2010 年 1 月 14 日に設定されました。約 95 人の応募がありました。各応募者に関する詳細はスプレッド・シートにまとめられました。長聖中学の研修には 5 人の先生と 5 人のアシスタントが必要なので、候補者を約 20 人に絞ってインタビューしました。インタビューはビクトリアの CPCI の事務所で、S.J. Kim、ユリ・ジェンクス、そして私 (Jim Henderson) によってなされました。

雇用された人々はオリエンテーションを受けるため、2 月 20 日にサルベーション・アーミー・コミュニティ教会に集まり、そこで先生とアシスタントの組み合わせや、与えられる教室が発表されました。加えて、生徒の研修スケジュールの詳細を含む、総体的な情報も与えられました。それをもって先生たちは研修の事前準備ができるので、全員が良いオリエンテーションであると評価しました。

## 8. 先生・アシスタント紹介 (The Staff)

### クラス 1

#### **Julie Fischer** (先生)

Julie は Malaspina College/University の教育学学士号の保持者です。彼女の暖かいユーモアと細かいところまで行き届く気配りを、生徒たちはとても感謝していました。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

#### **Aidan Docherty** (アシスタント)

Aidan は 2009 年にビクトリア大学を卒業し、歴史学学士号を保持しています。サマー・キャンプで 2 年間 ESL (英語を母国語としない人に英語を教えるクラス) を教えた経験があります。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

### クラス 2

#### **Christine Rowlandson** (先生)

Christine はビクトリア大学の応用言語学学士号を保持しています。さらに、彼女は 10 年にわたり外国人に英語を教えてきました。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

### **Amanda Crocker** (アシスタント)

Amanda はウェスタン・オンタリオ大学の科学学士号を保持しています。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

### クラス 3

#### **Heidi Stieg** (先生)

Heidi は TESOL(英語を学ぶ外国人を教える資格)を保持し、日本で英語を教えた経験があります。彼女のクラスはいつも元気で沸き立っていました。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

#### **Jen Hugenschmidt** (アシスタント)

Jen はビクトリア大学の学士号を保持しています。彼女はとても暖かく人を安心させる人柄を持っています。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

### クラス 4

#### **Shanna Baslee** (先生)

Shanna はブリティッシュ・コロンビア大学の学士号を保持しています。また彼女は TESL(英語教授法)の資格があり、1年間 ESL を教えた経験があります。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

#### **Meghan Barnhart** (アシスタント)

Meghan は国際開発論の学士号と TESL の資格を保持しています。彼女はペルーで ESL を教えたことがあります。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

### クラス 5

#### **Renee Baron**

Renee はビクトリア大学の教育学学士号を保持しています。彼女はサマー・キャンプで 5 年間 ESL を教えてきました。次の機会があれば、強く再雇用を推薦します。

#### **Emily Gracia** (アシスタント)

Emily は最近 Mt. Douglas 高校を卒業しました。彼女はスペインで 1 年間 ESL を教えしました。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

## 9. 生徒とスタッフの様子 (Students and Staff)

## 10. 総合的な論評 (General Comments)

佐久長聖中学の生徒及び先生たちと、今回もまた当研修に携われたことは、私にとって大きな光栄でありました。私が校長を勤めたここ数年の間を通して、この研修の内容は着

実に成長を続け、胸を張れるような現在の段階に達しました。しかし、私たちはさらなる成長を目指した努力を続ける所存です。

研修開始前になされた、佐久長聖中学の先生方の心のこもったご苦勞に感謝したいと思います。生徒たちが各ホスト・ファミリーに披露する「自己紹介」を、前もって準備することはとても大事なことです。なぜなら「自己紹介」をすることによって、生徒たちの緊張がぐっとほぐれるからです。もちろんビクトリア到着後も、「自己紹介」をより上手にできるよう、私たちも英語の先生たちと共に、生徒のサポートをし続けてまいります。

Mt. Douglas 高校での学校交流が、生徒たちにとって一つのハイライトであることは疑う余地がありません。毎年 Mt. Douglas の生徒たちも、この交流をとて楽しみにしています。今年も歓迎式典、学校案内、クラス訪問がなされましたが、数百人の生徒が参加した、昼食時の体育館での **Engineering Challenge** の盛り上がりによって、それらはより記憶に残るものとなりました。

今年は Mt. Douglas 校の先生が佐久長聖中学生を、クラスに積極的に参加させてくれました。おかげでこの日は、彼らにとって心躍る日となりました。

歓迎式典の後、Kim 氏と私は Mt. Douglas 高校の校長先生である John Fawcett 博士と、研修について話し合う機会がありました。これまでも学校訪問は常に細心の注意をもって計画され、また歓迎されるものでありましたが、学校当局と Mt. Douglas 高校の先生方の熱意を再認識することができ、今後のより意義深い学校交流を期待できることが分かりました。

最後に、私たちは各研修が終わるごとに、全てのスタッフにその研修に関する意見を出してもらい、それを参考に次年度の研修プランを作るということにご留意ください。ですから、佐久長聖中学の先生方と生徒たちからフィード・バックは大歓迎であり、とても有難いものです。今年の長聖中学側と私たちの緊密な協力関係は素晴らしいものでした。今年も長きに渡って、共に研修が実施できることを心待ちにしております。

尊敬の念を込めて。

Jim Henderson

CPCI 校長

CPCI 校長によるレポートのカラー版のオリジナルをご覧になりたい方は、

[www.toa-epci.com/pro\\_group.html](http://www.toa-epci.com/pro_group.html) をクリックし、ページの下の方にある、  
2010年佐久長聖中学カナダ研修レポート クリックしてください。

---

## 2010年度佐久長聖中学カナダ研修旅行 CPCI 校長先生のレポートに対する補足

3月02日 あいにくの雨模様であったが、全員が元気に到着した。

当日はオリンピック直後の交通規制があり、バスを空港構内に入れることが出来ず、バスが待ち受ける場所まで、スカイ・トレインと呼ばれる電車に乗って行った。スカイ・トレインは全てコンピューターによってコントロールされる、運転手のいない電車で、多くの生徒がそれに驚いていた。

段々と好天になっていったが、気温が低く、風が強かったので、フェリー搭乗中は外のデッキに出ないようにとの注意が出された。

ホテルでのオリエンテーションや食事は無事平穩に行われた。

ただ、ホテルの都合でいつもと違う会場が使われたが、幾つかの点で不便・不都合な点もあり、来年からその使用は断ると言い渡した。

尚、ホテルの勘違いからと思われるが、女子の泊まる階に何人かの男子の部屋が割り当てられており、キーを生徒たちに手渡す時まで、弊社のスタッフもそれに気づかなかった。

幸い男子の階に部屋が空いていたので事なきを得たが、当該の男子生徒たちに無用の迷惑をかけ、まことに申し訳なかった。

これまでそのような誤りが無かったため、弊社スタッフに無意識の油断が生じたことは否めない。お詫び方々、今後はそういう油断が出ないように、「当たり前」と思われることでも、必ず再確認する緊張感を持ち続けるよう心がけたい。

生徒たちはすこぶる元気で、これまでのどのグループよりも旺盛な食欲を見せたのは何よりであった。

3月03日 鮮やかな快晴の朝を迎え、幸先よい出だしとなった。

元気に朝食を終え、研修会場に移動し、英語の先生たちと顔合わせをしたが、今年の生徒たちのリラックス度は非常に高く、過去の生徒たちが3日目くらいに見せる表情で、まことに頼もしかった。

交流会に向けての歌の練習を何度か行ったが、回を重ねるごとに上達を見せ、特に男子の声は厚みを増した。

夕方ホスト・ファミリーと面会し、ホーム・ステイが始まったが、いつも夜にかかる「困った～、助けて」という電話が一つも無かった。

3月04日 快晴の中、ホスト・ホームからの初登校。

午前中、遠藤真梨さんが吐き気を訴えた。

午後には岡野優美子さんが気持悪いと訴えた。

2人とも熱はなく、ソファで休んだら回復した。長聖の先生方の見立てでは時差による寝不足が原因とのことであった。

午後、吉原先生、Jim 校長、Kim の3人で Mt. Douglas 校に出かけ、最終打ち合わせをした。

また、Jim 校長、Kim はボランティア先のシニア・ホームを訪ね、最終打ち合わせをした。

生徒たちは Mt. Douglas 校やボランティア先で披露する、英語でのプレゼンテーションの練習をした。特にゆっくりと、はっきり発語することに重点をおいた。

3月05日 この日も快晴のもと、Mt. Douglas 校での交流会が行われた。

今年の Mt. Douglas 校の受け入れ態勢は尋常ならざるものがあった。

まず、全体集会での生徒数はいつもの2倍はいた。

カナダ国歌も初めて同校のブラス・バンドの伴奏で、同校生徒も含めた全員で合唱する形をとり、大感動のうちに歌われた。

長聖生徒の合唱「Yell」はスタンディング・オベーションで賞賛され、本来が音楽専攻であった Fawcett 校長先生からも「素晴らしい」と絶賛された。

各生徒のスピーチもクリアーで上手になされ、バイオリンの合奏も大拍手を受けた。

Mitchel 副校長先生のスピーチは日本語混じりのユーモラスなもので、大いに場を盛り上げ、2人の生徒会会長のウェルカム・スピーチも心温まるものであった。

中でも今年の圧巻は学校ツアーの後に組み込まれた、クラスへの参加であった。

Food, Art, Drama, Social Science などのクラスに参加させてくれたが、いずれも言葉のハンディが障害にならないように工夫されており、大部分の生徒は大いに楽しんだ。

ただ、Social Science のクラスは比較的盛り上がりには欠けた。二校の生徒が離れて座ったことなど、クラスの先生の気合とやり方の間に空回りがあったようである。

来年も同じクラス参加があると思われるので、事前のミーティングをしてやり方に工夫をすべきであろう。

とにかく、校長先生と副校長先生はこの交流を大事に考えてくださり、非常に協力的である。日本の学校との交流と称することをやるカナダの学校は数多くあるが、今回の内容に比することをやる所は、我々の知る限り、皆無であると言っても過言ではない。

特に Mitchel 副校長先生は、交流の数週間前に双子の流産という不幸があったにもかかわらず、全力でことに当たってくださった。感謝の言葉も無い。

午後には終了式での代表スピーチをする生徒が選ばれた。今年は自ら手を挙げる生徒が 2 人おり、その他の生徒は長聖の先生方が相談して決められた。ただし、形としては英語の先生が選抜したかのように発表された。

選ばれた生徒たちには、日本を出発してからそれまでに体験した印象的なことを日本語で書き出し、出来るところまで自分の力で英語にしておく宿題が与えられた。

この夜は長聖中学による夕食招待にあずかり、お腹がはち切れるほどのごちそうをいただきました。まことに有難うございました。

3 月 06 日 生徒たちはこの週末、各家庭の事情に合わせて、色々なアクティビティやショ

3 月 07 日 ピングを楽しんだ。

その間、生徒からの緊急連絡はただの一つも無かった。大感謝である。

3 月 08 日 午前中、代表スピーチをする生徒は CPCI のスタッフの指導のもとに、スピーチを英語にした。その際、週末の出来事についても加筆された。

午後はその英語を読む練習を少しやり、帰宅後、最低 5 回は声に出して読むように指導された。

お昼の前に Jim 校長によるボランティアに関するレクチャーがあり、それに続

いて、学校に隣接するシニア・ホームを訪問した。

去年初めてこのボランティア活動がなされた。その時は余り広くない部屋が与えられたが、結果が非常に好評だったので、今年は広いダイニング・ルームが提供された。しかもランチ・タイムになされることになったので、参加者も大幅に増加した。

「Yell」の合唱、篠笛、バイオリン合奏が披露された。お年寄りたちは、最初は好奇の目を向けていたが、次第に喜びの表情に変わり、大いに楽しんでいて、一人ひとりに手渡された、あらかじめ用意した折鶴もとても喜ばれた。

シニア・ホームの責任者はその内容と反響にいたく感激し、来年もぜひやって欲しいと懇願してきた。

午後はダウン・タウン・ラリーの予定であったが、突然の季節はずれの雪と強風に見舞われ、長聖の先生方の了承を得て急遽それをキャンセルし、体育館でのアクティビティと通常の授業とに切り換えた。

その後、好天にはなったが寒さと強風は相変わらずだったので、負け惜しみではなく、キャンセルの判断は正しかったと思われた。

3月09日 ちょっと肌寒い天候の中、午前中は通常の授業がなされ、その合間に代表スピーチの練習が行われた。練習につれて、個々の生徒の個性が少しずつ出るようになり、段々と気合が入っていくのはいつものことであった。

午後は予定通り、ボランティア・ビジットを実施した。今回は保育園を対象に行ったが、いつものように大成功であった。

保育園によっては、自分たちの寸劇を披露することから始めるなど、受け入れ側も色々と準備をして迎えてくれるようになり、年々内容が充実しているのはまことに喜ばしい。長聖の生徒たちが帰る際には、涙を流しながら別れを惜しむ子どもたちも多く、生徒も「本当にやってよかった」という気持ちになるようである。「相手に喜ばれることを喜びとする」というボランティアの主旨が見事に実現しているわけである。

3月10日 絶好の天候とはいえなかったが、健康上の問題は無かろうと判断され、午前中8日にキャンセルされた、課題を持って街を練り歩くダウン・タウン・ラリーを行った。生徒たちはとても楽しんだ様子で、元気よく帰校したので、心底では寒さを心配していた我々は胸を撫で下ろしたのであった。

午後は最後の授業ということで、ホスト・ファミリーに渡すサンキュー・カードを作ったり、終了式のリハーサルを行った。その間に、度胸をつけるために実際にマイクを使っての代表スピーチの練習もやった。

修了式の詳細については Henderson 校長のレポートを参照。

レセプションではみんな本当に元気で、大いに食べ、写真を撮りながら、英語の先生たちとお別れをしていた。

3月11日 毎年のことだが、ホスト・ファミリーとの別れはつらく、多くの涙が流された。その後バス・フェリー・バスを乗り継いで、大都会のバンクーバーに移動した。気温がかなり低く、雨もぱらついたりする中であったが、有名なスタンレー・パークでは、トーテム・ポールのある所で集合写真を撮ることができた。それからオーケー・ギフト・ショップで買い物を堪能し、その後ホテルにチェック・インした。夕食は韓国レストランで摂ったが、皆ものすごい食欲で、特に白米のご飯の食べ方は尋常ではなく、オーナーに予定の予算をかなりオーバーしたと泣きつかれ、追加料金を払うことになるほどであった。それに煽られたか、Kim はホテルへの帰り道を間違え、かなりの回り道をして生徒たちに笑われた。

3月12日 整然とした動きで予定通りにホテルを出発し、チェック・インも滞りなく済んだ。ただ、今回から一つの荷物の重量が 23kg となり、何人かの荷物がそれを超えたため、その対応のためにあたふたする場面もあった。次回の説明会ではその点についての案内をより強調すべきと思われた。

空港でサンドイッチの朝食の後、整然と帰国の途についた。

昨年と同様、今年の生徒たちは本当に元気で、病院に行く生徒は一人も出なかった。御蔭様で私たち CPCI のスタッフは通常より楽をさせていただきました。全生徒、引率の先生方に心から感謝いたします。